

# 救急・災害医療体制検討専門委員会

(平成 25 年度)

## 救急・災害医療体制検討専門委員会報告書

広島県地域保健対策協議会 救急・災害医療体制検討専門委員会

委員長 谷川 攻一

平成 25 年度の本委員会では、集団災害医療救護訓練（中国地区 DMAT 連絡協議会実働訓練合同開催）実施、改訂版災害時医療救護活動マニュアルの周知、島根原子力発電所災害時における避難患者の受け入れ、基幹災害拠点病院の指定、救急医療情報ネットワークシステムの更新について検討を行った。

### (1) 広島県集団災害医療救護訓練について

平成 25 年度広島県集団災害医療救護訓練は、平成 25 年 11 月 9 日（土）に中国地区 DMAT 連絡協議会実働訓練との合同で開催した（後掲 20 頁参照）。県内医療機関としては県立広島病院、JA 尾道総合病院そして福山市民病院が実働訓練を実施した。中国地区 DMAT 連絡協議会実働訓練としては、県対策本部と DMAT 調整本部の設置、高速道路パーキングエリアでの参集拠点設置、広島空港での SCU 設置、そして上記災害拠点病院における DMAT 受入の受援訓練を実施した。また、実働訓練翌日の 11 月 10 日には、検証会も兼ねて陸上自衛隊、海上自衛隊からの報告および情報交換会を開催した。

なお、平成 26 年度の訓練は東広島医療センターの担当により実施予定である。

### (2) 改訂版災害時医療救護活動マニュアルの関係各所への周知

東日本大震災における医療対応の経験と、平成 24 年度に実施した広島県集団災害医療救護訓練の検証結果から、広島県ではあらかじめ地域をブロック単位に分け、被災地ブロックでは医療ニーズ把握やリソース振り分けを行い、市町や県は外部からの支援をとりまとめてブロックを支援するという新たな災害時医療救護マニュアルを策定した（地域ブロック案の詳細は広島県医師会速報 2198 号付録に掲載）。次のステップは、全県で地域ブロック体制を整備するため各地域の実情を踏まえた体制のあり方について検討することであり、市郡地区医師会や各地区保

健所・市町と具体的な協議を行うこととした。

### (3) 島根原子力発電所災害時における避難患者の受入れについて

広島県では、島根原子力発電所における事故・災害発生時に原発周辺避難区域内の医療機関、福祉施設の避難患者を受け入れるための体制整備を進めている。島根県との調整結果では、広島県が受ける受入要請の想定は約 1,500～1,800 人となっている。受入先の調整は、まず広島県災害対策本部が要請・情報を一括して受け、地域ブロック毎に振り分け、地域ブロック内では地域コーディネーターが中心となって受入先医療機関の選定を行うこととした。なお、病院や福祉施設の避難は原子力発電所事故に限られた事象ではなく、津波・洪水などの自然災害においても大きな課題となっており、南海トラフ巨大地震により発生した被災地内病院や施設避難に対しても同様の体制で臨む必要がある。地域内での振り分けには地域コーディネーターの協力が不可欠であり、「地域コーディネーターの活動補助」などの活動マニュアル作成とその支援体制整備を行わねばならない。

### (4) 基幹災害拠点病院の指定

基幹災害拠点病院は、平常時におけるほかの災害拠点病院、DMAT などに対する研修の実施や、災害時における活動の中心的な役割を担う。対象は自然災害にとどまらず、核、化学物質そして生物関連危険事象（いわゆる NBC）へと拡大されている。現在、本県では県立広島病院が基幹災害拠点病院に指定されている。一方、広島大学病院は、国が定める三次被ばく医療機関として過去 10 年間にわたって西日本を中心とした被ばく医療の普及啓発のための講習会や除染訓練を行っており、今回の福島第一原子力発電所事故への災害医療対応でも中核的な役割を担っている。また、化学災害や生物関連危険事象へ

の医療体制も備えている。今回、特殊災害に対応できるよう整備された広島大学病院の医療リソースを最大限に活用するため、県立広島病院と役割分担をする形で基幹災害拠点病院を追加することが検討された。

#### (5) 救急医療情報ネットワークシステムの更新

広島県では、これまで「広島県救急医療情報ネットワークシステム」を運用してきた。現行システム移行後8年目を迎え、機器の耐用年数を超過していることから機器の更新を行うとともに、円滑な救急搬送のため現行のシステムの特徴をふまえてより使いやすいシステムに再構築することとした。平成24年度より標記内容への更新に向けて検討を行い、新たなシステムが導入されることとなった。

新システムは平成26年10月の始動を予定しており、救急応需のほか、EMISとの接続、#8000との連携、医療機能情報システムとのデータ統合、NHKデータ放送を活用しての当番医情報のテレビ閲覧可能化などを目指している。また、県内の全救急車にはタブレット端末を配備し、傷病者の数、事故種別や重症度、緊急性、観察項目をワンタッチで入力できるようにするほか、救急車の位置情報や現場の写真、手書き文字を共有できるシステムを検討している。

平成26年10月稼働開始に向け、広島県主催の説明会・調整会議や、広島県医師会内にシステム検討WGなどで、情報共有や意見照会の機会を設けるこ

ととした。

## 平成25年度広島県集団災害医療救護訓練報告 (中国地区DMAT実働訓練との合同訓練)

今回の訓練は広島県集団災害医療救護訓練と中国地区DMAT実働訓練との合同訓練として実施された。訓練の目的は、医療機関における災害医療対応に加え、中国5県のDMAT連携、DMAT隊員の技能・知識の向上、県内防災関係機関との連携、SCUの設置・運営および病院における受援のあり方の検証である。

### (1) 訓練概要

○訓練日時：平成25年11月9日（実働訓練）、10日（検証会）

○会場：広島県庁危機管理センター、高速道路沼田パーキングエリア（PA）、広島空港、県立広島病院、JA尾道総合病院、福山市民病院、広島大学病院

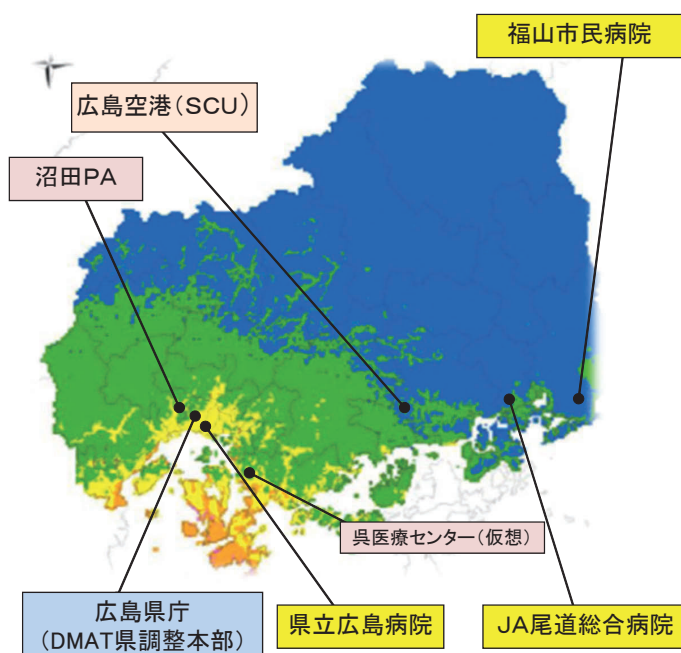
○訓練想定災害：

8:30 広島県安芸灘付近部を震源とするM7.25の地震発生。（津波は発生せず）

各地で家屋や建築物が倒壊し、要救助者が多数発生。

○活動内容：

- ・県災害対策本部・県DMAT調整本部活動
- ・参集拠点活動（沼田PA）
- ・災害拠点病院での実働訓練：県立広島病院、JA尾道総合病院、福山市民病院



・ SCU 活動（広島空港）

・ 検証会

○主な参加機関：

- ・ 広島県医師会，広島県，広島県災害拠点病院
- ・ 厚生労働省，DMAT 事務局，中国地区 DMAT
- ・ 広島県ドクターヘリ，消防機関
- ・ 陸上自衛隊第 13 旅団，海上自衛隊呉地方総監部

・ 大阪空港局，NEXCO など

(2) 全体想定

平成 25 年 11 月 9 日（土）午前 8:30，安芸灘～伊予灘での M7.25 の大規模地震の発生により，広島市，呉市などの一部で震度 6 弱，福山市，尾道市でも震度 5 弱を観測。多数の建物が倒壊し，多くの死傷者が発生したものの。

平成25年度 中国地区DMAT連絡協議会実働訓練 参加DMAT等					
県名等	参加機関名(所属機関)	参加人数	県名等	参加機関名(所属機関)	参加人数
鳥取県	・鳥取県立中央病院 ・鳥取県立厚生病院 ・鳥取赤十字病院 ・鳥取大学医学部附属病院 (・鳥取県医療政策課)	24	鳥根県	・松江赤十字病院 ・雲南市立病院 ・鳥根県立中央病院 ・鳥根大学医学部附属病院 ・国立病院機構浜田医療センター ・益田赤十字病院 ・隠岐病院 (・鳥根県医療政策課)	39
山口県	・岩国市医療センター医師会病院 ・周東総合病院 ・三田尻病院 ・山口赤十字病院 ・済生会山口総合病院 ・山口大学医学部附属病院 ・長門総合病院 ・山口県立総合医療センター ・徳山中央病院 (・東亜大学) (・山口県地域医療推進室)	46	広島県	・県立広島病院 ・安佐市民病院 ・広島大学病院 ・広島赤十字・原爆病院 ・JA広島総合病院 ・国立病院機構呉医療センター ・中国労災病院 ・興生総合病院 ・JA尾道総合病院 ・福山市民病院 ・日本鋼管福山病院 ・市立三次中央病院 ・庄原赤十字病院 (・広島県医療政策課)	95
岡山県	・岡山赤十字病院 ・岡山済生会総合病院 ・国立病院機構岡山医療センター ・岡山大学病院 ・川崎医科大学附属病院 ・倉敷中央病院 ・津山中央病院 (・美作中央病院) (・岡山県保健福祉部医療推進課)	45	ブロック外等	・国立病院機構災害医療センター ・済生会滋賀県病院 ・兵庫県災害医療センター ・神戸赤十字病院 ・愛媛県立中央病院 ・北九州総合病院 ・三豊総合病院	15 (インストラクター他)
				<b>参加合計 55機関 (指定機関48)</b>	<b>264 隊員235</b>

### 平成25年度 中国地区DMAT連絡協議会実働訓練 参加機関(DMAT以外)

#### 消防機関

三原市消防本部  
尾道市消防局  
福山地区消防組合消防局

#### ヘリコプター保有機関

広島大学病院(ドクターヘリ)  
広島県消防防災航空センター

#### 広島県

広島県防災航空センター(再掲)  
三次看護専門学校

#### その他

大阪航空局広島空港事務所  
NEXCO西日本中国支社  
陸上自衛隊第13旅団  
海上自衛隊呉地方総監部  
(一社)日本産業・医療ガス協会中国地域本部  
(株)NTTドコモ中国支社  
(株)NTTデータ  
KDDI(株)  
(株)日本デジコム  
広島国際大学  
厚生連尾道看護専門学校  
パイオニアソリューションズ(株)

広島県は災害対策本部を設置の上、広島DMATの派遣を要請するとともに、中国地区各県（鳥取県、島根県、岡山県、山口県）にもDMAT派遣を要請。

県内の災害拠点病院では、病院災害対策本部を設置し、患者受入体制を確保するとともに、DMAT派遣、受入の準備を実施。そのほかの病院では、EMIS入力により自院の被害状況を報告。

### (3) 訓練内容

#### 【中国地区DMAT実働訓練内容】

- ① 情報共有体制の確立（各災害拠点病院および各DMATによるEMISへの状況入力、県庁の災害対策本部およびDMAT調整本部による県域全体の状況把握と情報共有）
- ② DMAT活動（情報支援、参集拠点活動、災害拠

## 中国地区DMAT連絡協議会実働訓練の概要

### DMAT県調整本部設置・運営、DMAT参集訓練

1 日時 平成25年11月9日(土) 8:30～15:30

2 会場 広島県庁 危機管理センター

#### 3 訓練想定災害

8:30 広島県安芸灘付近部を震源とするM7.25の地震発生。  
(津波は発生せず。)  
各地で家屋や建築物が倒壊し、要救助者が多数発生。

#### 4 活動内容

県庁内に県災害対策本部・県DMAT調整本部を設置し、広島DMAT及びDMAT事務局を通じて中国地区各県DMATに派遣要請。

参集拠点病院として、福山市民病院、沼田PAを設定。途中、県立広島病院、JA尾道総合病院、(仮想)呉医療センターを拠点追加。

その後、傷病者等の状況に鑑み、広島空港へのSCU設置を決定。  
本部において、各拠点へのDMAT参集に係る情報伝達訓練、各参集拠点の指揮調整を実施。

#### 5 主な参加機関

- ・DMAT(厚生労働省DMAT事務局、県立広島病院、広島大学病院、中国労災病院、鳥取大学医学部附属病院)
- ・ヘリコプター調整(広島大学病院、中日本航空機、県災害対策本部(仮想))
- ・外部招聘講師(DMATインストラクター)
- ・県災害対策本部医療対策班(医療政策課)



本部活動風景

## 中国地区DMAT連絡協議会実働訓練の概要

### 参集訓練(山陽自動車道沼田PA上り)

1 日時 平成25年11月9日(土) 8:30～14:00

2 会場 山陽自動車道 沼田PA 上り線

#### 3 訓練想定

発災後、活動拠点本部設置病院選定までの参集拠点、情報収集。  
移動中DMATへの情報付与、参集場所の指示訓練。

#### 4 訓練内容

- (1)先着DMAT訓練:拠点立ち上げ、情報収集、DMAT指示
- (2)参集DMAT訓練:情報確認、参集ルート確認～活動場所への移動

#### 5 設置施設

簡易テント、机、いす、パソコン、自家発電装置(電源確保)

#### 6 主な参加機関

- ・DMAT(岩国市医療センター医師会病院、JA広島総合病院、広島赤十字・原爆病院、広島大学病院、市立三次中央病院、鳥取赤十字病院、益田赤十字病院、浜田医療センター、島根大学病院、松江赤十字病院、雲南市立病院、隠岐病院、山口大学病院、済生会山口総合病院、長門総合病院、周東総合病院、三田尻病院、山口県立総合医療センター、山口赤十字病院)
- ・NEXCO西日本中国支社



拠点設置状況



活動状況



## 中国地区DMAT連絡協議会実働訓練の概要

### SCU本部設置・運営訓練

- 1 日時 平成25年11月9日(土) 10:30頃～15:30
- 2 会場 広島空港(消防庁倉庫)
- 3 訓練想定  
大規模地震に伴い、多数の重症患者が医療機関に集中し、域内病院では対応できない重症患者発生のため、県外へ広域医療搬送が必要となった。  
県本部による岡山空港SCU設置決定、国DMAT事務局への広域医療搬送調整依頼、各DMATへのSCUへの参集要請。
- 4 訓練内容  
先着DMATによるSCU本部設置、重症患者(模擬患者及び想定患者)の受入と広域搬送を想定したSCU本部運営訓練。
- 5 訓練上の患者搬送状況(EMIS上の入力結果)  
C1:福岡空港8名、八尾空港一名
- 6 主な参加機関  
・DMAT(鳥取赤十字病院、鳥取大学医学部附属病院、島根県立中央病院、浜田医療センター、益田赤十字病院、広島大学病院、興生総合病院、日本鋼管福山病院、市立三次中央病院、周東総合病院、山口赤十字病院、長門総合病院、山口県立総合医療センター、香川県三豊総合病院)  
・空港管理者(国土交通省大阪航空局広島空港事務所)  
・ヘリコプター保有機関(広島大学病院(再掲)、広島県防災航空センター)  
・消防機関(三原市消防本部)  
・通信事業者(㈱NTTドコモ中国、KDDI㈱、㈱日本デジコム)  
・医療ガス((一社)日本産業・医療ガス協会中国地域本部)  
・県(医療政策課)  
・模擬患者(三次看護専門学校)



SCU展開



SCU運営(本部)

## 中国地区DMAT連絡協議会実働訓練の概要

### 病院支援訓練(県立広島病院)

- 1 日時 平成25年11月9日(土) 8:30～15:30
- 2 会場 県立広島病院内
- 3 訓練想定  
地震発生に伴う多数傷病者の受入れ。  
(災害拠点病院としての機能は維持。)
- 4 訓練内容  
(1) 病院職員訓練: 災害対策本部設置  
(2) 参集DMAT訓練: 活動拠点本部設置、多数傷病者(マグネッソンボール)対応  
(3) 近隣病院支援訓練: 参集広島市民病院、広島大学病院、広島赤十字・原爆病院等(いずれも県庁一室に仮想病院を設置)への移動、被害情報入力等。
- 5 病院状況設定  
建物被害なし  
電気・水道・医療ガス・通信機器(無線)いずれも使用可
- 6 訓練上の受入患者状況  
受入れ160名(重症38名、死亡11名); 模擬記者発表より
- 7 主な参加機関  
・DMAT(松江赤十字病院、島根大学医学部付属病院、隠岐病院、雲南病院、県立広島病院、安佐市民病院、広島赤十字・原爆病院、JA広島総合病院、中国労災病院、呉医療センター、岩国市医療センター医師会病院、済生会山口総合病院、山口大学医学部付属病院)



訓練風景



DMAT受付

点病院の安定化支援、SCU・広域医療搬送支援)  
【県内参加医療機関における災害医療救護訓練の内容】

- ① 県立広島病院: 病院内受入訓練(想定: 地震による多数傷病者)  
・病院内災害対策本部およびDMAT活動

- ・院内DMATと外部応援との連携
- ・多数の傷病者への院内対応や搬送対応
- ② JA尾道総合病院: 病院内受入訓練(想定: 地震に伴う列車脱線事故による多数傷病者)
- ・病院内災害対策本部およびDMAT活動の拠点本部の設置・運営

- ・多数の傷病者への病院対応， 参集 DMAT 連携
- ③ 福山市民病院：現地活動・受入訓練（想定：地震に伴う道路上での大型車両事故による化学災害）
- ・事故現場対応
- ・病院内災害対策本部活動
- ・多数傷病者対応， 除染訓練

#### (4) 個別検証

##### ① 県調整本部

DMAT 調整本部と県庁災害対策本部の役割分担は良好であった。特にホワイトボードなどを用いて情報共有し，うまく連携が取れていたと思われる。ロジスティックス研修の成果もあり，ロジスティックス担当者の動きがスムーズで，EMIS の入力なども

### 中国地区DMAT連絡協議会実働訓練の概要

#### 病院支援訓練（JA尾道総合病院）

- 1 日時 平成25年11月9日(土) 8:30～14:30
- 2 会場 JA尾道総合病院内
- 3 訓練想定  
地震によるがけ崩れに伴う列車脱線。  
(災害拠点病院に被害なし。)
- 4 訓練内容  
(1) 病院職員訓練：災害対策本部設置，事故現場(仮想)への医療救護班派遣，院内患者受け入れ  
(2) 医療救護班訓練：医師会医療救護班の編成，現場でのトリアージ  
(3) 消防職員訓練：事故現場(仮想)でのトリアージ，病院搬送  
(4) 参集DMAT訓練：活動拠点本部設置，多数傷病者対応  
(5) 電子トリアージ訓練
- 5 病院状況設定  
建物被害なし  
電気・水道・医療ガス・通信機器(無線)いずれも使用可
- 6 訓練上の受入患者状況  
重症15名，中等症13名，軽傷43名，死亡3名  
(転送患者 重症3名)
- 7 主な参加機関  
・DMAT(鳥取県立中央病院，鳥取県立厚生病院，岡山医療センター，岡山大学病院，岡山済生会総合病院，倉敷中央病院，津山中央病院，庄原赤十字病院，JA尾道総合病院)  
・二次救急医療機関(尾道市立市民病院)  
・消防機関(尾道市消防局，福山地区消防組合消防局)  
・模擬患者(広島国際大学，JA尾道看護専門学校)  
・通信事業者(株式会社NTTデータ)



病院災害対策本部



DMAT病院支援

### 中国地区DMAT連絡協議会実働訓練の概要

#### 病院支援訓練（福山市民病院）

- 1 日時 平成25年11月9日(土) 8:30～14:30
- 2 会場 福山市民病院内
- 3 訓練想定  
地震による山陽自動車道上でのバスとトラックの衝突事故。  
有毒物質の飛散により，一部乗客に被害発生。  
(災害拠点病院に被害なし。)
- 4 訓練内容  
(1) 病院職員訓練：災害対策本部設置，事故現場(仮想)への医療救護班派遣，除染，院内患者受け入れ  
(2) 消防職員訓練：事故現場(仮想)でのトリアージ，病院搬送，除染  
(3) 参集DMAT訓練：活動拠点本部設置，院内多数傷病者対応
- 5 病院状況設定  
建物被害なし  
電気・水道・医療ガス・通信機器(無線)いずれも使用可
- 6 訓練上の受入患者状況  
重症8名，中等症10名，軽傷17名，死亡1名  
(転送患者 重症2名)
- 7 主な参加機関  
・DMAT(岡山赤十字病院，川崎医科大学附属病院，岡山済生会総合病院，福山市民病院)  
・消防機関(福山地区消防組合消防局)  
・模擬患者(三次看護専門学校)



訓練風景(現場からの搬送)



DMAT病院支援

混乱なく実施できた。ただし、本番では今回の場所は利用できないことは留意する必要がある。

課題としては、被災現場および各活動拠点本部の情報を把握できていない状況で動かざるを得ず、本部と各拠点の連絡、指示事項の行き違いが生じたことが指摘された。衛星携帯電話を用いた通信では、技術的なトラブル（ワイドスターのワイルドコールが登録されていなかったこと、BGANの利用を熟知できていなかったことなど）に遭遇した。また、広域搬送では、調整本部とSCU本部との間で情報の齟齬が生じるなど、互いの活動イメージの共有ができていなかったようである。さらに、自衛隊機や海上保安庁ヘリなど公的ヘリ調整実施方法などについては、今後検証が必要である。

本部活動は誰もが担う可能性があり、業務調整員に限らず医師や看護師もロジスティックス研修などを通じてスキルを身につける必要がある。

#### ② 参集拠点（沼田PA）

ロジスティックス研修などの成果もあり、円滑に立ち上げを実施することができた。待機時間が長かったものの、DMAT隊の振り分けは適宜対応できた。

課題としては、撤収のタイミングなどにおいて調整本部との情報連携で齟齬が生じていたことが挙げられる。PAの活用の要点は、情報の収集と物資などの補給拠点、そして活動拠点本部への速やかなアクセスである。候補地の選定にあたっては、上り下りや給油施設など参集拠点のロケーションを考慮する必要がある。また、車内待機中に一斉連絡が困難な状況に遭遇しており、参集しているDMATとの連絡手段を確保しなければならないと考える。さらに、今回の訓練ではDMAT隊に付与する情報が少なく、情報拠点の訓練としては今後の検討が求められる。

#### ③ 広島空港 SCU

難航したものの、DMAT調整本部との連携のもと通信トランシーバーや伝令を活用し、ドクヘリ調整を現場で実施することができたのは収穫であった。

課題としては、SCU立上げ時に混乱し、本部・診療部門の人員の役割分担が当初うまくいかなかったこと、本部長の統括DMATへの引き継ぎができていなかったことが挙げられる。また、EMIS、MATTSの入力に不備があるなど調整本部との情報連携で齟齬が生じており、指揮命令系統があいまいな場面にも遭遇した。さらに、搭乗者名簿の作成が遅れたり、

トリアージタグをつけていない患者への対応などにおいても若干の混乱があったりした。情報対応では業務調整員以外の隊員でも入力できるよう研修すべきと考えられた。

なお、大規模な搬送では、自衛隊、海上保安庁、消防機関との連携が重要であり、その場合の調整は県対策本部およびDMAT調整本部が担う必要がある。

#### ④ 県立広島病院

「DMAT隊員動態」、「搬送」、「病院調査」、「総合」とホワイトボードを分け、クロノロを工夫したことで情報整理が円滑に行うことができた。また、病院におけるDMATを受入れの認識が強化されたことや防災無線の利用を確認できたことも収穫であった。

一方、課題も指摘された。当初、本部レイアウト設置が円滑にいかずに混乱し、病院災害対策本部とDMAT本部のコミュニケーションが困難であった。加えて調整本部などに対する情報のはき出しも不十分であった。また、担当するエリア（医療圏）の把握が至らず、到着DMATへの指示などを徹底しきれなかった。統括権限によるEMIS本部機能はうまく利用できていなかった。北向きの本部設置場所ではワイドスターはかなり厳しく、衛星携帯電話の通信環境などの確立に時間を要した。

#### ⑤ JA尾道総合病院

成果としては、病院内体制を整えてDMATを迎えられたこと、DMAT本部内では到着DMATに適切な役割分担を行えたこと、そして情報共有の手段としてトランシーバーを有効に活用できたことが挙げられる。

一方で、課題としては、位置的な問題もあってDMAT本部と病院本部との情報共有がうまくいかなかったこと、病院のセクションごとの体制やリーダーが支援のDMAT隊員に伝わっていないなど互いにコミュニケーションがうまく取れていないことが指摘された。病院側のマニュアルに支援DMATの位置づけを明記する必要がある。また、ホワイトボードの記載書式などの共通化も求められる。

#### ⑥ 福山市民病院

成果としては、役割分担が適切に行われていたこと、本部設置が円滑に行われ運営できたことが挙げられる。事前研修（中国ブロックロジスティックス研修など）の実施が成果につながったものとする。

課題としては、情報の共有化が不十分であったこと



と、DMAT 調整本部との間でヘリコプターの調整などで混乱が生じたことが挙げられる。情報共有の手段としては活動途中のブリーフィングを考慮しても良いと思われる。一方、今回の訓練では当院の患者受入状況は良かったが、訓練としてはもう少しキャパシティーオーバーの設定にして、他拠点病院との連携に重点を置く方法もあったと考える。なお、クロノロについては病院職員によるものが中心となっており、DMATのクロノロが不十分で、参集DMATと存分に活用できなかったことは反省する必要がある。また、本部設置場所が衛星通信に不利であり、今後の場所選定には配慮すべきである。

#### (5) 自衛隊との連携に関わる情報提供について

今回の検証会では、大災害時における陸上自衛隊第13旅団、海上自衛隊呉地方総監部との連携に関わる情報提供が行われた。

陸上自衛隊の衛生隊について、各師・旅団および方面隊に衛生隊があるが、医師はおらず、方面隊も医師不足の状態である。陸上自衛隊は5つの部隊に病院があり、それぞれ医師、看護師が配置されている（自衛隊横須賀病院のみ一般開放している）。陸自の医療モジュール内の医療機器は十分ではないが、徐々に充実されるとのことである。

海自自衛艦について、洋上SCU展開時の輸送艦などの施設（医療施設や食事）は所定の手続きを経れば、艦長の判断のもとに施設利用や食事の提供が可能とのことである。なお、東日本大震災では、広島県DMATチームが自衛艦「くにさき」にて呉から横須賀へ移動したが、当該輸送艦では通信環境などの確保に苦慮した模様である。現在、DMATが自衛隊の輸送艦などを利用する場合に備えての連携訓練なども行われており、マニュアルなどの整備については国（内閣府と厚生労働省）で検討段階であるとの

ことである。艦船の中での活動の統制は指揮系統が異なり、一概には言えないが、総じて艦船全体統括（責任者）は艦長、診療部門などの統括は医師が担うようである。

自衛隊との連携については、行政を中心として訓練などを通じて積極的に検証して行く必要がある。

#### (6) 実働訓練に係る総合検証

今回の訓練では、中国5県の多くのDMATが参加し協同活動を実施できたこと、訓練および検証会を通じてDMAT隊員の技能・知識の向上を図ることができたこと、県内防災関係機関、通信キャリア、医療ガス協会など準備段階から多くの調整を通じて連携することができたこと、SCUの設置・運営において広島空港事務所や近隣消防との円滑な連携をとることができたこと、そして実働訓練を実施した拠点病院においてDMATの受入や病院対策本部との連携に関する課題を共有できたことなど、当初の目的は達成したものと考える。

一方で課題も挙げられた。特に、広域災害時における被災地の医療ニーズの把握をどのように行うかが問われた。DMAT体制の基本的視点の再認識である。今回の訓練では、参集DMATは現場活動や支援医療機関での診療支援に活動が集中していたようであった。今後は、DMAT養成研修や技能維持研修、ロジスティックス研修を通じて、DMAT活動内容の再確認などを行う必要がある。なお、今年度の広島県集団災害医療救護訓練や中国地区DMAT訓練において、圏域（ブロック）の医療ニーズ把握事案などを盛り込む予定となっている。

また、本部機能の強化や、より円滑な通信等業務調整員の役割と重要性が改めて認識された。今後は事務職員のみでなく、医師や看護師に対してもロジスティックス研修を促す必要がある。



## 中国地区DMAT連絡協議会実働訓練の概要

### 実働訓練(2日目)概要

#### 実働訓練等に係る検証会、災害医療に関する意見交換会

- 1 日時 平成25年11月10日(日) 9:00~13:10
- 2 会場 広島大学病院臨床講義棟
- 3 目的
  - ・実働訓練に係る各会場での検証結果の共有
  - ・被災現場等における自衛隊との連携強化
- 4 運営等
  - (1)検証会
    - 【運営】本間正人(鳥取大学医学部附属病院), 中田敬司(東亜大学)
    - 【報告】各訓練会場統括DMAT, ロジリーダー等
  - (2)災害医療に関する意見交換会
    - 【運営】本間正人(鳥取大学医学部附属病院), 中田敬司(東亜大学)
    - 【講演】陸上自衛隊第13旅団 野村洋三氏, 上原秀樹氏
    - 海上自衛隊呉地方総監部 新宮健吾氏, 丸山恭彦氏
    - 【意見交換】谷川攻一(広島大学病院), 山野上敬夫(県立広島病院), 坂上隆士(県医療政策課)
- 5 主な参加機関
  - ・中国地区各県DMAT
  - ・通信事業者 等 計 220名



検証会報告風景



意見交換会風景

広島県地域保健対策協議会 救急・災害医療体制検討専門委員会

委員長	谷川 攻一	広島大学大学院医歯薬保健学研究院
委員	植岡 進次	福山地区消防組合消防局
	大田 泰正	福山市医師会
	尾形 昌克	広島市消防局警防部
	坂上 隆士	広島県健康福祉局
	阪谷 幸春	広島市健康福祉局
	瀬浪 正樹	JA尾道総合病院
	世良 昭彦	広島市立安佐市民病院
	谷本 雅伯	広島市医師会
	内藤 博司	広島市立広島市民病院
	中尾 正和	JA広島総合病院
	半田 徹	広島市医師会
	藤井 修二	広島県危機管理監
	宮加谷靖介	呉医療センター
	宮庄 浩司	福山市民病院
	村田 裕彦	安佐医師会
	山野上敬夫	県立広島病院
	山田 博康	広島県医師会
	野間 純	広島県医師会